

活動紹介!





樹撞尺八クラフ

尺八のサークルです。サークルができてから52年になります。先生のご指導のもとに、現在、少人数ですが第2第4土曜日に活動しています。初心者も大歓迎だそうです。

古典から現代の音楽まで幅広いジャンルの楽曲を尺八で演奏します。伝統楽器の伝承のためにも力を尽くされています。



1月の催しから

- 10(金)
 - ・アロハリボン フラダンス発表会
- 12(日)
 - ・サンミュージックピア / 発表会 
- 14(火)
 - ・映画会「わたしのかあさん」
「われ弱ければ」 
- 17(金)
 - ・森の会バオバフ成人式 
- 18(土)
 - ・あんずの木音楽会 
- 24(土)
 - ・加賀ピア / 教室発表会

会館継続利用団体の皆様へ

会館では、サークル活動の様子を多くの方に知っていただくために、その内容を広報誌「かけはし」やHP、掲示板などに公開しています。

毎年3月に更新の時期を迎えます。1月より受付で更新のための用紙をお配りしております。よろしくご協力をお願いいたします。



会館事務室から



今月の話題－馬

馬というと競走馬のサラブレッドを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。面長で吸い込まれるような黒い大きな瞳とピンとした耳、艶々した毛並み。たてがみを靡かせ、スマートな足で颯爽と駆ける姿。そうしたことから馬が好きだという人はたくさんいます。わざわざ馬を見るために競馬場に行く人もいます。

かつて馬は、運搬、農耕、移動などのために、なくてはならない存在でした。そのため、人は馬と深くかかわり、大切にしてきた歴史があります。所々に残る馬を供養する馬頭観音や馬と一つ屋根の下で暮らした南部曲り家などがそれを物語っています。

馬によく働いてもらうためには、この人という安心できるという関係を結ぶことが大切だそうです。草食動物で何かとテリケートな馬は、静かで穏やかな接し方、突飛でない一貫した接し方を好みます。昔の人はそうしたことを大切に世話をしてきました。

人とかわり深い馬ですから、物語にも度々登場します。まず思い浮かぶのは小学校の教科書にも取り上げられた「スーホーの白い馬」です。モンゴルに伝わる、少年と馬との間の信頼と愛情を描いたお話です。結末では、無念にも死んだ白馬が馬頭琴となって姿を変え、少年の心の中に生き続けます。スーホーの白馬への接し方が、馬の心に寄り添った温かいものだっただけに、悲しみがとても心に染みます。

人への接し方も馬への接し方と同じ。今年1年、他との信頼関係を大切にしながら、天馬のように駆け抜けるのもよし、速歩(トロット)でトントン軽やかに進むのもよし、並足でゆっくり歩むよし、ご自分なりのペースで、素晴らしい午年にしてください。

